

小山土壌処理問題で 2団体説明会求める

ごみ焼却灰を使ったコンポスト(発酵土壌)の処理

を巡り、小山、下野など2市2町で作る小山広域保健衛生組合が処理委託先に処理費用計54億円を支払うことで和解した問題で、「小山の環境を考える市民の会」(楠通昭代表)、「環境問題を考える会」(酒川靖一郎代表)の2団体が24日、小山市の同組合に説明会の開催を求める要望書を提出した。

楠代表によると、今年3月に検証委員会が報告書を出したが、これを受け、再発防止にどう取り組むか、説明が一切ないという。

2団体が来月16日までの回答を求めたのに対し、同組合の溝口謙治事務局長は「市町と協議し、期限内までに回答する」と述べた。

下野新聞

土壌撤去問題 説明会求める

市民団体が要望書

【小山】焼却灰を原料としたコンポスト(土壌)の撤去問題を受け、「小山の環境を考える市民の会」と



「環境問題を考える会」写真左は24日、小山広域保健衛生組合に対し早期の市民説明会開催などを求める要望書を提出した。小山広域は「開催の可否について検討する」としている。コンポスト問題をめぐ

り、小山広域が廃棄物処理会社に処理費用54億円を支払うことで和解。小山広域が設置した検証委員会は問題発生の要因などについて

まとめた報告書をごとし3月、提出している。要望書では①検証委員会の報告を基に市民説明会を開催する②説明は広域

組合の構成市町として統一的な見解であること③再発防止策を具体的かつ長期的に示すなどと求めている。

